

<令和5年度実施計画>

番号	取組	取組の説明	期待できる効果	評価指標
1	イノベーション・ハイスクール連絡協議会の設置 【沼津城北と共通】	共同研究の対象校である沼津城北高校と定期的に協議会を持ち、より効果的な探究活動の推進を図る。	情報を共有・交換することで、相互の進捗状況を把握し、事業終了以降の両校の協力関係が充実し、各校の指導体制が確立される。	連絡協議会を年3回以上実施する。
2	校内「探求と表現検討委員会」の活性化	週時程で確保された委員会の打合せ時のみならず、委員以外の教員も巻き込み、情報共有と、より効果的・効率的な指導体制の確立を目指す。先進校視察を積極的に行い、指導の充実へ向けて情報収集し、研究を続ける。また、フィールドワークでは、巡回指導を充実させ、生徒の円滑な活動をサポートする。	学校全体として組織的な取り組みが確立される。1・2年生にとっては、探究活動がより深化し、個人の興味・関心や地域の特性に応じた課題等に対して、より具体的に考えられるようになる。3年生は、それまでに身につけた探究スキルを活かし、より積極的に課題の掘り下げを行い、自らのキャリアデザインに活かせるようになる。	系統立てた3か年の指導計画が完成する。
3	コーディネーターの活用	生徒の探究活動・探究スキルの深化へ向け、コーディネーターの適切な助言、各種講演会や研修の講師紹介等、支援を求め、連携を図る。	適切な助言や支援により、より充実した探究活動や発表ができるようになる。また、職員が指導スキルを身につけ、学校としてのノウハウを吸収することにより、探究の指導体制を確立する。	コーディネーターの支援が効果的であった、と答える生徒50%以上。探究の効果的な指導が行えると答える職員50%以上。
4	探究スキルを高める	外部講師等による研修や講演会を通して、グループ活動を活発に進めるための探究スキルを高める。	探究活動（グループ活動）が深化し、活発に進められるようになる。発表時には考えや意図がよく伝わり、効果的な資料や表現によって、より説得力のある発表ができるようになる。	外部講師等による研修会を3回以上実施する。
5	プレゼンテーション能力を高める	聴衆に対して、より効果的な発表になるよう、講師を招聘し、資料作成や発表方法等について学ぶ。		沼津城北高校との合同発表会の実施(令和6年1月を予定)
6	進路指導の充実	探究活動にて身につけたスキルにより、興味・関心の多様化、自己表現力やコミュニケーション力を高める。中でも、総合型選抜に向けて、自主的な研究課題に取り組む姿勢、能力を伸ばさせる。大学等の訪問機会や進路講演会等の充実と合わせ、進路意識や意欲の一層の高揚を図る。	自己の将来像をイメージし、自己の課題への取り組み方等について具体的に表現できるようになる。現在の社会における諸問題に課題意識を持ち、話題の提示や相手の言動に対する対応力を身につける。	探究活動が進路選択の参考になったと答える生徒50%以上。